

## 日本経済の成長とサステナブルファイナンスのあり方

環境問題や社会問題が深刻化している現代において、持続可能な社会の実現を金融面から支えるサステナブルファイナンスへの期待が高まっている。

一方で日本経済に目を向けると、人口減少や地政学リスクなど、経済成長に対して多くの課題を抱えており、倫理的な側面だけでなく、企業の競争力や資本市場の機能の観点からもサステナブルファイナンスを検討する必要がある。特に近年では、アメリカで反 ESG の動きも見られ、金融の役割や市場メカニズムとの関係が改めて問われている。

現状、日本政府は 2050 年までにカーボンニュートラルを目指すことを宣言し、「資産運用立国」を掲げているが、サステナブルファイナンスと経済成長は両立し得るのだろうか。

本テーマでは、サステナブルファイナンスによって日本が国際競争力を高め、経済成長を実現できるのか、あるいは競争力の低下を招くのか、多額の運用資金を抱える機関投資家や、多様化する ESG 関連金融商品を踏まえて検討し、日本経済にとって望ましいサステナブルファイナンスのあり方を議論してもらいたい。

### 【論点 1】 日本経済の成長とサステナブルファイナンスについて

本論点では、サステナブルファイナンスの役割と現状を整理した上で、サステナブルファイナンスが日本経済の成長を促進するのか、もしくは資源配分の歪みや企業のコスト負担の増加を通じて競争力の低下をもたらすのか議論してほしい。また、現状のサステナブルファイナンスの課題を挙げ、理想的なサステナブルファイナンスや、それを実現するための提言を行ってほしい。その際、サステナビリティと経済活動の概念的な話だけでなく、日本経済の現状に即した形で議論を進行していただきたい。

### 【留意点 1】

サステナブルファイナンスを定義した上で議論を進めてほしい。また、必要に応じて ESG 投資とインパクト投資の違いも明記してもらいたい。

### 【論点 2】 機関投資家の役割

本論点では、機関投資家の役割と責任を整理した上で、機関投資家がサステナブルファイナンスをどこまで、またどのように行うべきかを検討してほしい。その際、スチュワードシップ・コードについて言及し、機関投資家が行うサステナビリティ課題に関するエンゲージメントについて、その効果と限界を議論してもらいたい。

### 【留意点 2】 機関投資家のあり方に関して

機関投資家は、長期の運用資金を取り扱う金融機関を想定する。また、アセットオーナーとアセットマネージャーそれぞれの観点から議論を行ってほしい。

**【論点 3】 ESG 関連金融商品の動向**

本論点では、ESG 債を中心とした ESG 関連金融商品について、現状と課題を分析してほしい。その際、海外の金融市場との比較において、日本のサステナブルファイナンス市場が国際競争力を持ち得るのか議論してもらいたい。

**【留意点 3】**

日本が特に推し進めているトランジション・ファイナンスについて言及してほしい。